

わたしの聖戦

◎◎女性が働くということ◎◎◎◎ 16

ジハード

医学ジャーナリスト 植田美津江

目に見えない「規制」

一週間ほど所用でアメリカに滞在した。

この時期、テレビプログラムは秋に行われる大統領選挙の予備選の話題でにぎわっている。各候補者の演説や取り巻き達の白熱した様子はまるでお祭り騒ぎだ。

ところで、国民の間には前大統領であったクリントン氏の夫人、ヒラリー女史の大統領就任を望む声があったより高いらしい。今回の出馬はないが、恐らく次回の選挙には候補者として名が挙がるだろうともっぱらの評判である。ワシントンDCで通訳をしている知人によれば、ヒラリー女史の演説は「抜群にうまい」

のだという。また、クリントン氏の女性スキヤンダルが流れたときの冷静沈着な対応は国民に好印象を与え、国民皆保険制度の発案も人々のニーズを的確に捉えている。もし実現すれば、アメリカ最初の女性大統領誕生だといわれている。

以前から感じていたが、ヒラリー女史の服装はおしなべて地味系である。ノーカラーで膝丈ボックススカートのツーピース姿といういでたちが多い。デザインそのものが古めかしく、色もベージュやグレイがほとんど。くだんの知人が言うには、アメリカという国は女性の服装に対してはまだまだ